

★**体育指導のポイント**★**ほめる・叱るときのポイント**

「ほめる」ことは児童生徒の自発的な学習意欲を高め、「叱る」ことは児童生徒の反省を促し、思考・行動の変容をせまります。

◆結果や能力ではなく過程や努力をほめていますか？

学習過程で精一杯の努力があれば、その行動をほめることで、子どもの自信喪失を防ぐほか、次への挑戦意欲を高めることができます。その一方で、ほめることが結果的に逆効果になってしまうこともあります。以下のことを参考に「ほめる」ことについて考えてみましょう。

★50m走の場合

- ・「相変わらず足が速いね」→得意なことは頑張る
- ・「記録が向上したのはフォーム改善などに頑張ったからだね」→他のことも頑張ろうと思う

★鉄棒の場合

- ・「うまいね。才能があるね」→自分の優秀さを示そうとする
- ・「手がマメだらけになるまでよく頑張ったね」→他のことも粘り強く取り組もうとする

★バレーボール（連続円陣パス）の場合

- ・「上手な人が集まっているね」→苦手な子を排除しようとする
- ・「全員で声をかけ合いながらみんなで頑張っているね」→共生の視点で行動ができる

◆叱るときに感情的になってはいませんか？

叱るとは、声を荒らげたり、強い口調になることではありません。何が、どういけないのかを冷静に毅然とした態度で諭しましょう。また、タイミングを逃さず躊躇することなく注意する（叱る）ことが大切です。用具を乱暴に扱っている、友達が一生懸命がんばっているのを笑う…などはすぐにその場で注意しましょう。

★「ほめる」「叱る」本質は一緒★

ほめることも叱ることも目的は同じです。教員の一言で児童生徒がやる気になることもあれば、反対にやる気を削いでしまう可能性もあります。その一言に効果があるのかないのか、あるいは逆効果にならないか、考える習慣を持ちましょう。日頃から児童生徒との信頼関係を築いておくことも大切です。

